

2020年3月期 第2四半期 決算説明会

2019年11月8日

キョーリン製薬ホールディングス株式会社
代表取締役社長 荻原 豊



- **2020年3月期 第2四半期 連結決算の概況**
 - ・主力製品、後発医薬品の取り組み
- **2020年3月期 連結業績予想**
- **研究開発パイプラインの状況**
- **長期ビジョン「HOPE100」実現に向けた取り組み**

2020年3月期 第2四半期 連結決算の概況

2020年3月期 第2四半期 連結決算の概観

(単位：億円)

	19年3月期 第2四半期	20年3月期 第2四半期	対前年		対予想 (2019年5月13日発表)
			増減額	増減率 (%)	増減額
売上高	504	483	-21	-4.1	-38
営業利益	29	8	-21	-72.5	-15
経常利益	32	11	-21	-66.2	-14
親会社株主に帰属する 四半期純利益	22	8	-14	-62.4	-11

※ 第2四半期連結業績予想について、2019年11月5日に修正をリリースしましたが、上表の対予想は2019年5月13日発表値との差異を示します

2020年3月期 第2四半期 業績の概要

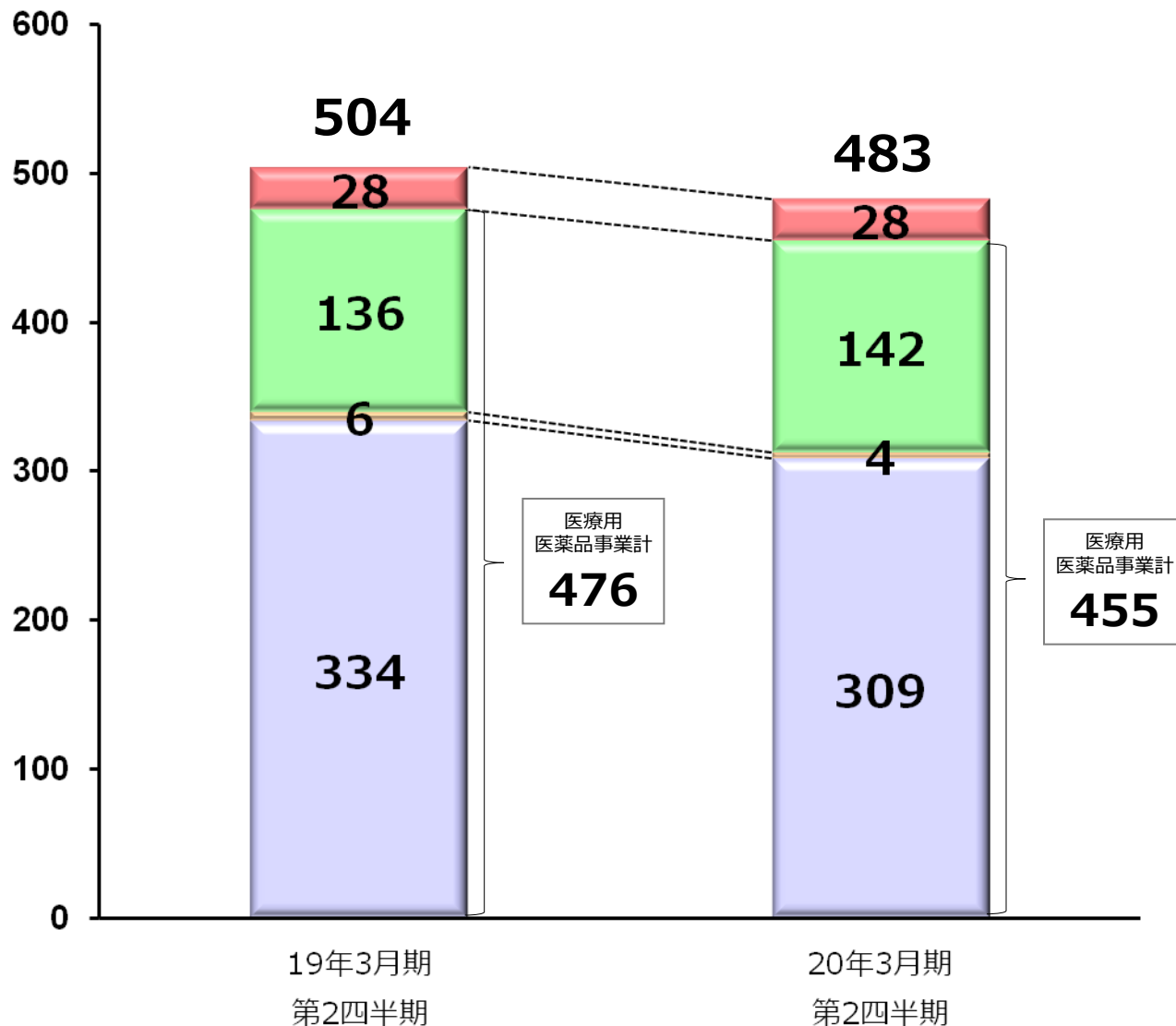
(単位：億円)

	19年3月期 第2四半期	20年3月期 第2四半期	対前年		対予想 (2019年5月13日発表) 増減額		
			増減額	増減率(%)			
売上高	504	483	-21	-4.1	-38		
医療用医薬品事業	476	455	-21	-4.4	-36		
	340	313	-27	-7.9	-25		
	新医薬品	国内	334	309	-25	-7.4	-25
		海外	6	4	-2	-35.5	0
	後発医薬品	136	142	+6	+4.5	-11	
ヘルスケア事業	28	28	0	+0.5	-1		
売上原価	238	238	0	0	-		
販売費及び一般管理費	237	238	+1	+0.1	-		
営業利益	29	8	-21	-72.5	-15		
経常利益	32	11	-21	-66.2	-14		
親会社株主に帰属する四半期純利益	22	8	-14	-62.4	-11		

※ 第2四半期連結業績予想について、2019年11月5日に修正をリリースしましたが、上表の対予想は2019年5月13日発表値との差異を示します

2020年3月期 第2四半期 業績のポイント ①対前年：売上高

(単位：億円)



【売上高計 - 21億円】

国内新医薬品 - 25億円

フルティフォーム、ベオーバ、ナゾネックスの売上伸長
 デザレックス 製品供給一時停止による影響
 長期収載品の売上減少

海外新医薬品 - 2億円

ガチフロキサシンに関わる収入が減少

後発医薬品 + 6億円

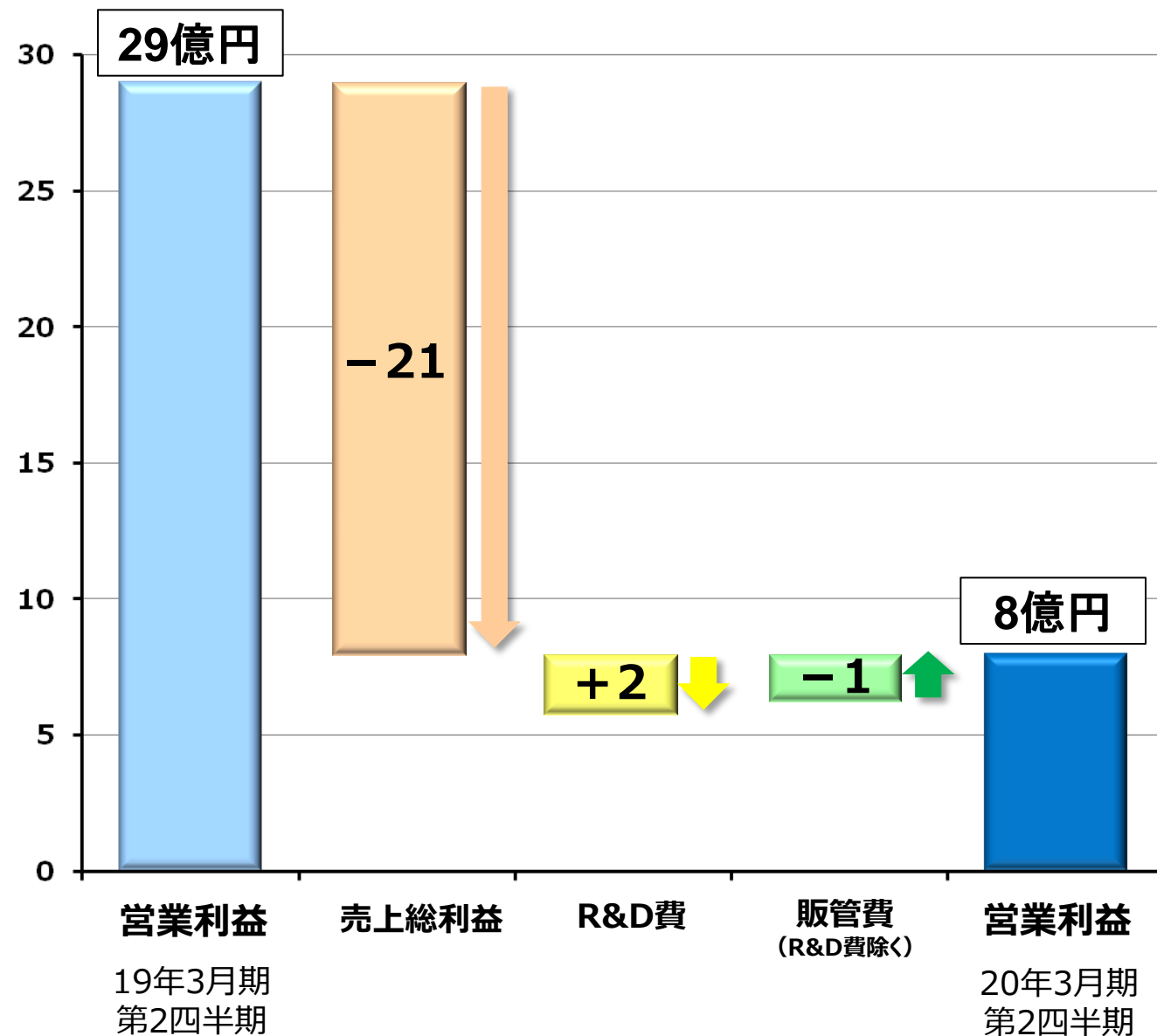
モンテルカストAG、モメタゾンAGによる売上拡大
 前年発売の追補品等が売上寄与

ヘルスケア事業 ±0億円

ルビスタの売上は伸長

2020年3月期 第2四半期 業績のポイント ②対前年：営業利益

(単位：億円)



【営業利益 - 21億円】

売上総利益の減少

売上高：前年比21億円減
 売上原価率：2.0ポイント上昇
 ・プロダクトミクスによる影響
 ・一時金収入の減少等

R&D費の増加

■ 50億円 (19/3期2Q) ⇒ 52億円 (20/3期2Q)

販管費 (R&D費除く) の減少

■ 187億円 (19/3期2Q) ⇒ 186億円 (20/3期2Q)
 ・主に販売費の減少

2020年3月期 第2四半期 業績のポイント ③ 対予想

(単位：億円)

	19年3月期 第2四半期		20年3月期 第2四半期		対前年		対予想 (2019年5月13日発表)	
					増減額	増減率(%)		増減額
売上高	504		483		-21	-4.1	-38	
医療用医薬品事業	476		455		-21	-4.4	-36	
	新医薬品	340	313		-27	-7.9	-25	
		国内	334	309		-25	-7.4	-25
		海外	6	4		-2	-35.5	0
	後発医薬品	136	142		+6	+4.5	-11	
ヘルスケア事業	28		28		0	+0.5	-1	
売上原価	238		238		0	0	-	
販売費及び一般管理費	237		238		+1	+0.1	-	
営業利益	29		8		-21	-72.5	-15	
経常利益	32		11		-21	-66.2	-14	
親会社株主に帰属する四半期純利益	22		8		-14	-62.4	-11	

■ 売上高・営業利益 未達の要因 当初予想（2019年5月13日発表）との差異

売上高：新医薬品（国内）では、主力製品の業績は概ね良好に推移する一方、デザレックスの供給再開が11月になったこと、新発売を予定していたラスビック錠の承認が9月にずれ込んだこと等により売上未達

営業利益：販管費の削減に取り組んだものの、売上未達等による売上総利益の減少により当初予想を下回りました

2020年3月期 第2四半期 主力製品の売上状況

(単位：億円)

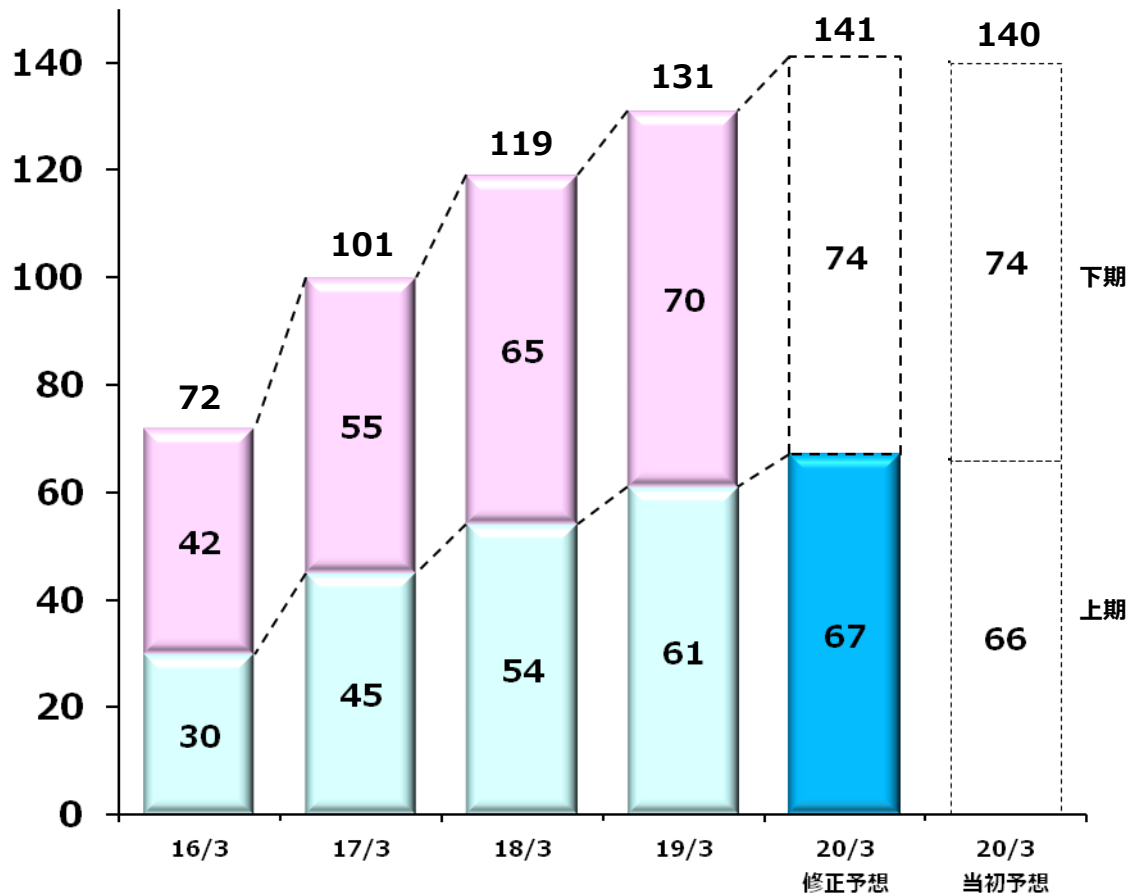
	19年3月期 第2四半期	20年3月期 第2四半期	対前年		対予想 (2019年5月13日発表) 増減額
			増減額	増減率 (%)	
フルティフォーム (喘息治療配合剤)	61	67	+6	+10.3	+1
デザレックス (アレルギー性疾患治療剤)	28	0	-28	-	-18
キプレス (成人製剤) (気管支喘息・アレルギー性鼻炎治療剤)	29	24	-5	-15.4	+2
キプレス (小児製剤) (気管支喘息治療剤)	33	30	-3	-9.6	+3
ナゾネックス (定量噴霧式アレルギー性鼻炎治療剤)	13	27	+14	+110.3	-4
ウリトス (過活動膀胱治療剤)	35	30	-5	-12.9	-1
ベオーバ (過活動膀胱治療剤)	-	6	+6	-	-1
ペンタサ (潰瘍性大腸炎・クローン病治療剤)	71	68	-3	-5.4	+5
ムコダイン (気道粘液調整・粘膜正常化剤)	31	28	-3	-9.7	+1
モンテルカスト錠「KM」 (気管支喘息・アレルギー性鼻炎治療剤)	53	54	+1	+2.5	0
モメタゾン点鼻液「杏林」 (定量噴霧式アレルギー性鼻炎治療剤)	-	4	+4	-	-
ミルトン (哺乳ビン・乳首消毒剤)	11	11	0	-1.1	-1

※ 第2四半期連結業績予想について、2019年11月5日に修正をリリースしましたが、上表の対予想は2019年5月13日発表値との差異を示します

主力製品、後発医薬品の取り組み

フルティフォーム（喘息治療配合剤）

売上高（単位：億円）



※上期は実績

■20年3月期 上期の状況

◆ ICS/LABA配合剤市場：7.2%拡大

567億円（18年4-9月）⇒ 608億円（19年4-9月）^{注1}

◆ フルティフォームの売上シェア

11.9%（18年4-9月）⇒ 12.6%（19年4-9月）^{注2}

■20年3月期の取り組み

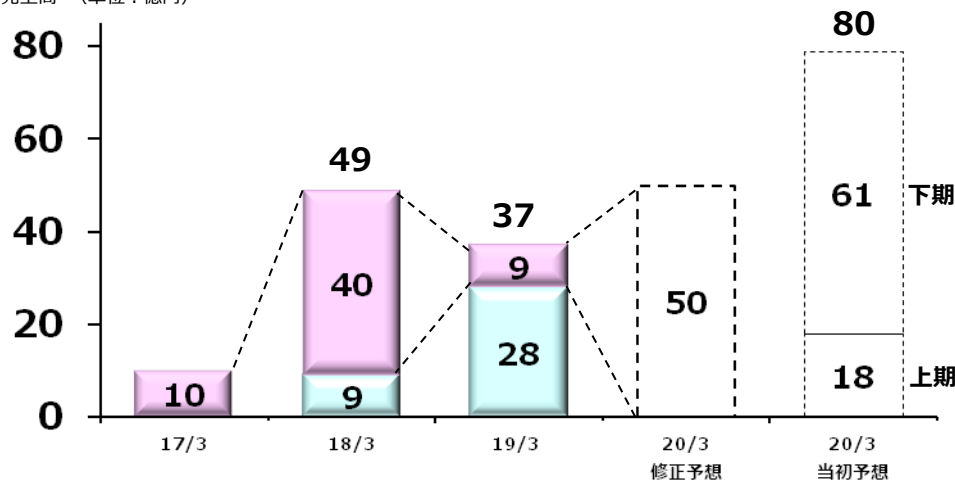
◆ 喘息治療のファーストライン薬としてのポジショニング確立を目指す

- ・「咳」症状を有する喘息患者さんへの臨床効果を訴求
- ・中枢から末梢まで、肺全体へ薬剤が分布
- ・エアゾール製剤のメリットを訴求（吸入のしやすさ）

注1、2 Copyright © 2019 IQVIA. JPM 2018年4-9月、2019年4-9月を基に作成 無断転載禁止

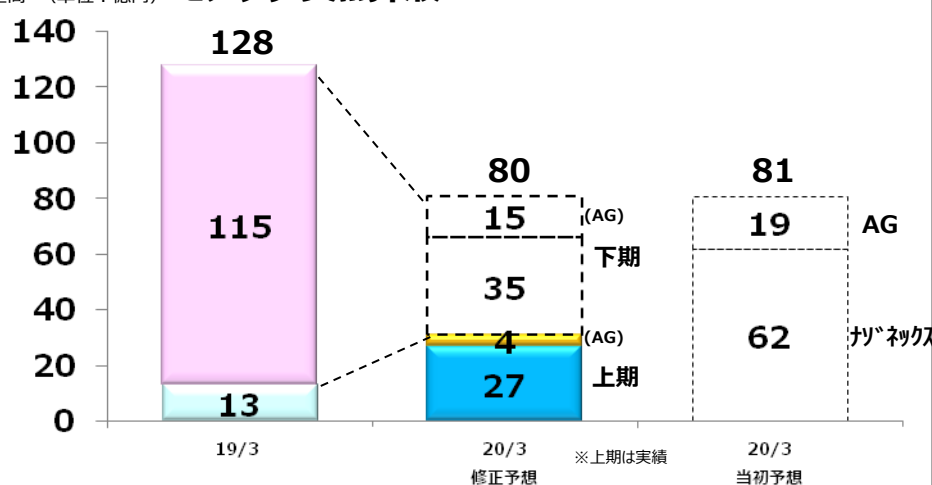
デザレックス (アレルギー性疾患治療剤)

売上高 (単位: 億円)



ナゾネックス点鼻液 (定量噴霧式アレルギー性鼻炎治療剤) モメタゾン点鼻液

売上高 (単位: 億円)



デザレックス

供給再開について

■MSDが、薬事手続きを完了

- ・原薬保管施設の外国製造業者認定の取得
- ・製造販売承認書の変更に関する承認の取得

- ◆供給再開とそれ以降の安定供給に必要と考えられる在庫量の確保に万全を期すべく対応

■供給再開日：2019年11月18日(予定)

■20年3月期 上期の状況

◆抗ヒスタミン剤市場：3.4%拡大

688億円 (18年4-9月) ⇒ 711億円 (19年4-9月)^{※1}

■20年3月期の取り組み

- ◆ユーザーに対して、あらためて「臨床効果」「相互作用」「安全性」の訴求による浸透を図り、採用軒数と処方への復活・拡大を図る

ナゾネックス

■20年3月期 上期の状況

◆局所用鼻用製剤市場：1.3%拡大

155億円 (18年4-9月) ⇒ 157億円 (19年4-9月)^{※1}

◆ナゾネックスの売上シェア

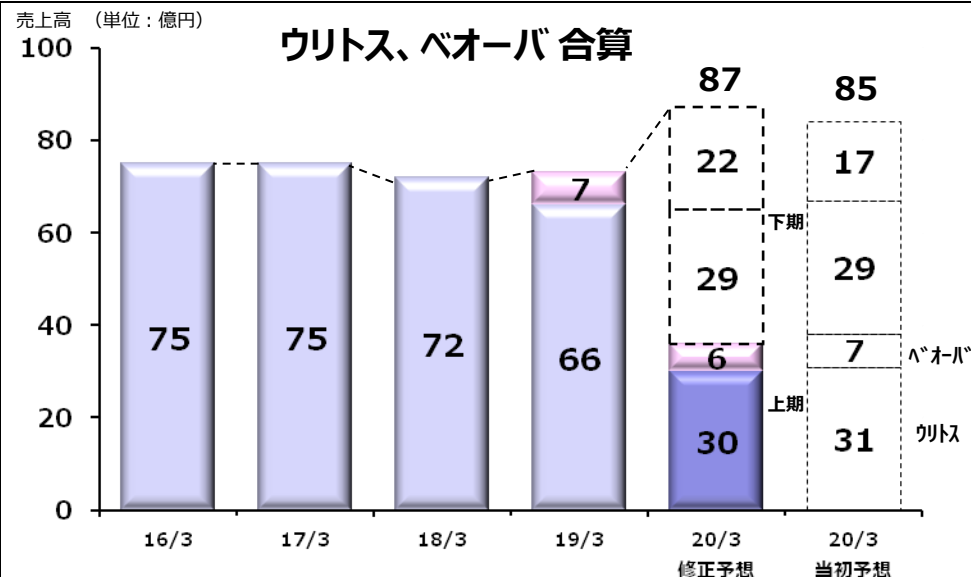
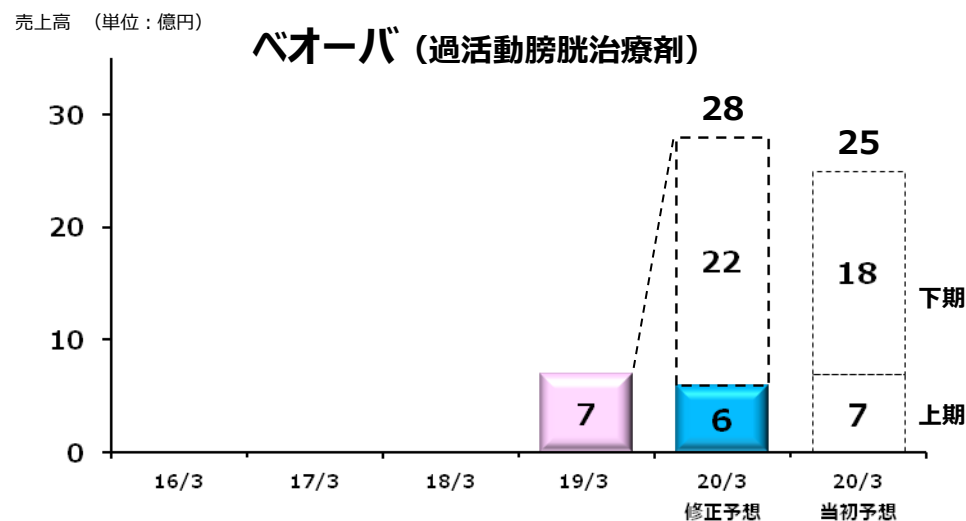
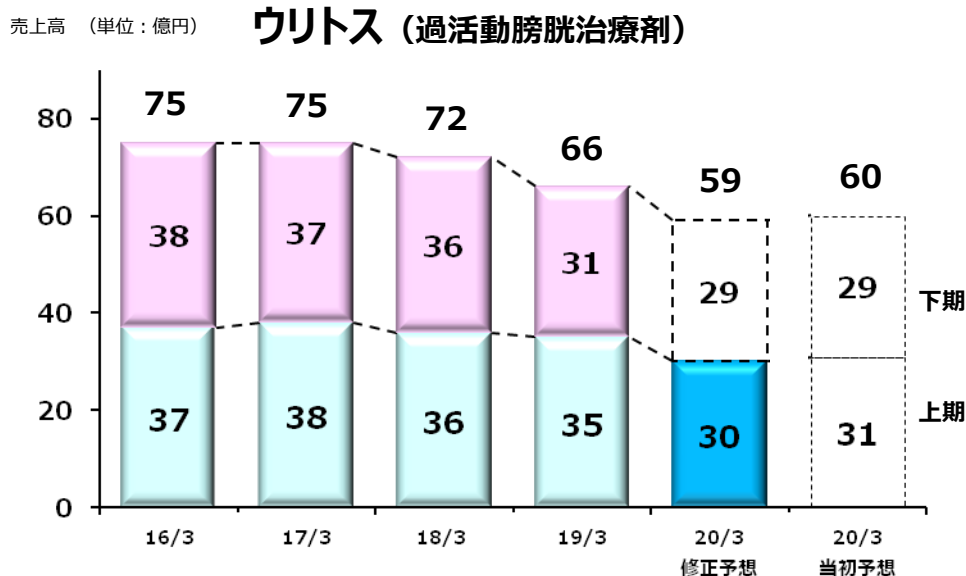
36.4% (18年4-9月) ⇒ 31.7% (19年4-9月)^{※2}

●モメタゾン点鼻液 (AG) の発売 (8月)

■20年3月期の取り組み

- ◆耳鼻科を中心に、デザレックス、キプレス (モンテルカストKM) とともに、適切な使い分けを提案し、ニーズに応じた「最適な鼻炎治療」を提供する

注1, 2 Copyright © 2019 IQVIA. JPM 2018年4-9月、2019年4-9月を基に自社分析 無断転載禁止



■ 20年3月期 上期の状況

- ◆ 過活動膀胱治療剤市場：5.2%拡大
443億円 (18年4-9月) ⇒ 466億円 (19年4-9月) 注1
- ◆ ウリスの売上シェア
8.6% (18年4-9月) ⇒ 7.5% (19年4-9月) 注2
- ◆ ベオーバの売上シェア
1.8% (19年4-9月) 注2

■ 20年3月期の取り組み

- ◆ ウリス：夜間頻尿を伴うOABへのファーストラインを目指す
- ◆ ベオーバ：投薬期間制限の解除 (12月)

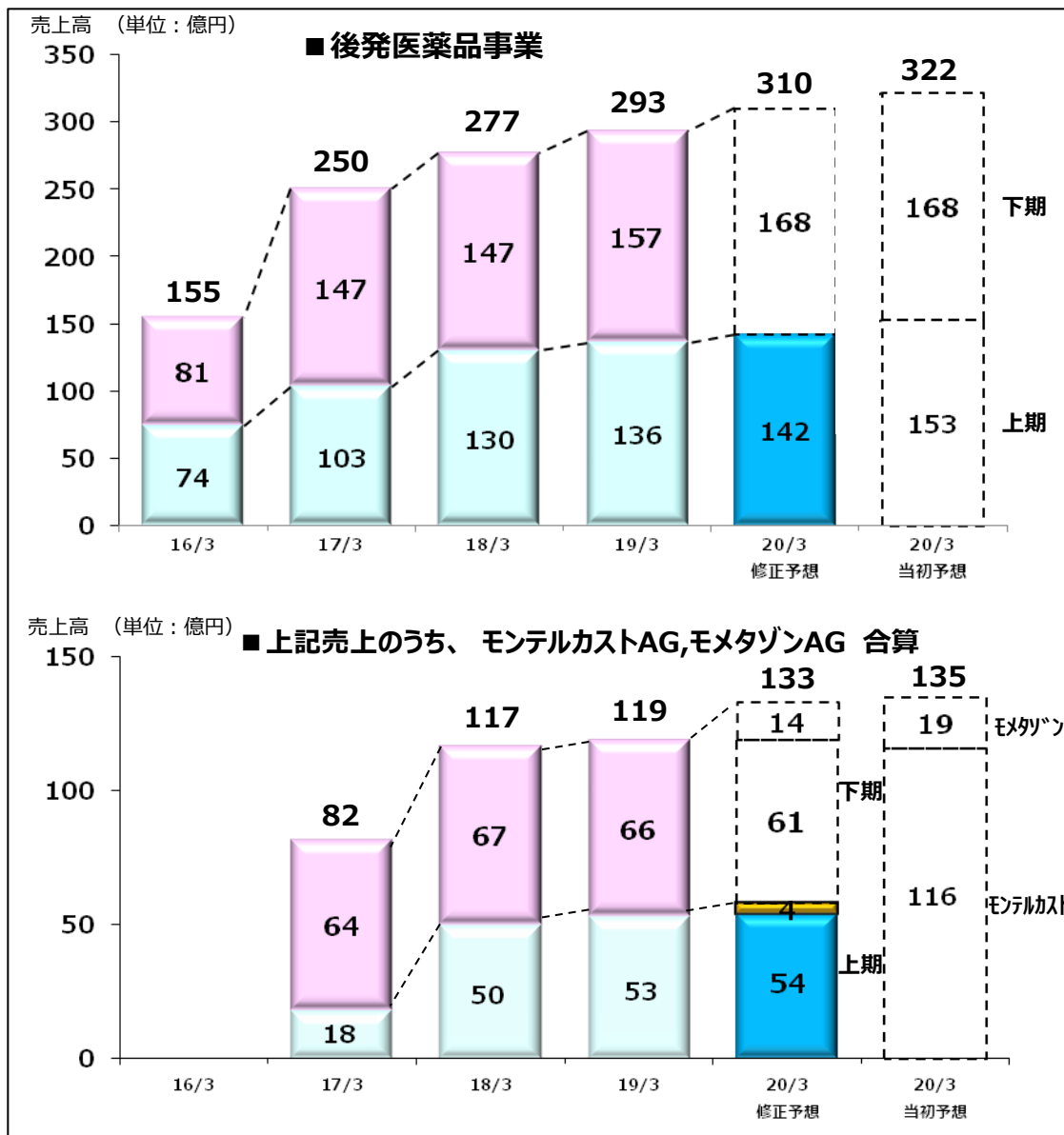
【OAB治療剤の第一選択薬に育成】

- ・ 幅広いOAB患者さんに処方が可能
- ・ 「臨床効果」「相互作用」「安全性」を訴求
- ・ 投与期間制限解除(12月)に向け、納入軒数と処方例数を拡大

注1.2 Copyright © 2019 IQVIA. JPM 2018年4-9月、2019年4-9月を基に作成 無断転載禁止

※ 過活動膀胱 (OAB)

■ 後発医薬品事業



■ 20年3月期 上期の状況

◆ AG戦略の推進

- ・モンテルカストAGの売上 54億円（前年同期比+1億円）
- ・モメタゾンAGの売上 4億円（前年同期比+4億円）
- ・イミダフェナシン（ウリトス）AGの製造販売承認取得

◆ 19年6月発売の追補品

- ・シロドシン錠2/4mg、シロドシンOD錠2/4mg、メコバミン錠 500μg

■ 20年3月期の取り組み

◆ オーツライズド・ジェネリック（AG）の取り組み

- ・モンテルカストAGのGE市場内での50%以上（高シェア）を目指す

2020年3月期 連結業績予想

2020年3月期 連結業績予想

※通期の業績予想について：19年5月13日に公表した通期の連結業績予想を修正いたしました

(単位：億円)

	19年3月期	20年3月期 (修正予想)	対前年		20年3月期 (当初予想)	対修正予想 増減額	
			増減額	増減率 (%)			
売上高	1,136	1,094	-42	-3.7	1,141	-47	
	1,079	1,034	-45	-4.1	1,080	-46	
医療用医薬品事業	785	724	-61	-7.8	758	-34	
	国内	777	710	-67	-8.6	744	-34
	海外	8	14	+6	+68.7	13	+1
	後発医薬品	293	310	+17	+5.7	322	-12
ヘルスケア事業	58	59	+1	+2.4	61	-2	
営業利益	90	65	-25	-27.6	91	-26	
経常利益	94	71	-23	-24.8	96	-25	
親会社株主に帰属する当期純利益	69	54	-15	-21.4	71	-17	

■ 通期業績予想修正のポイント

売上高：第2四半期累計期間の業績推移を勘案するとともに、供給再開日を11月に決定したデザレックス、9月に製造販売承認を取得したラスビック錠の売上予想を修正
 営業利益：売上減少及び売上原価率の上昇(約0.5ポイント)により売上総利益は減少。販売費及び研究開発費は当初予想から一定金額を削減

■ 対前年のポイント

売上高：新医薬品(国内)では、ベオーバ、デザレックス、ラスビック錠等、新薬群の売上は増加するものの、ナゾネックス及び長期収載品の処方減を主因として売上減少を見込む
 後発医薬品では、モメタゾンAGの発売を主因として売上増加を見込む
 営業利益：売上原価率は低下するものの売上減少により売上総利益は減少(売上原価率：前期比 約0.5ポイント低下)
 ：販管費は増加(販管費率(R&D費除く)：前期比 約2ポイント上昇、R&D費は2億円減少：18年度 108億円→19年度106億円)

2020年3月期 主力製品の売上予想

※通期の業績予想について：19年5月13日に公表した通期の連結業績予想を修正いたしました

(単位：億円)

	19年3月期	20年3月期 (修正予想)	対前年	
			増減額	増減率 (%)
フルティフォーム (喘息治療配合剤)	131	141	+10	+8.0
デザレックス (アレルギー性疾患治療剤)	37	50	+13	+34.4
キプレス (成人製剤) (気管支喘息・アレルギー性鼻炎治療剤)	62	47	-15	-24.5
キプレス (小児製剤) (気管支喘息治療剤)	76	63	-13	-17.4
ナゾネックス点鼻液 (定量噴霧式アレルギー性鼻炎治療剤)	128	62	-66	-51.4
ウリトス (自社販売分) (過活動膀胱治療剤)	66	59	-7	-10.7
ベオーバ (過活動膀胱治療剤)	7	28	+21	+278.6
ペンタサ (潰瘍性大腸炎・クローン病治療剤)	135	127	-8	-6.3
ムコダイン (気道粘液調整・粘膜正常化剤)	68	61	-7	-9.6
モンテルカスト錠「KM」 (気管支喘息・アレルギー性鼻炎治療剤)	119	115	-4	-3.3
モメタゾン点鼻液「杏林」 (定量噴霧式アレルギー性鼻炎治療)	0	18	+18	-
ミルトン (哺乳ビン・乳首消毒剤)	22	22	0	+1.4

20年3月期 (当初予想)	対修正予想
	増減額
140	+1
80	-30
45	+2
61	+2
62	0
60	-1
25	+3
120	+7
60	+1
116	-1
19	-1
23	-1

基本方針

- ・健全な財務基盤を維持しつつ、成長投資と株主還元を通じて、資本効率の向上を図ります
- ・株主還元は、DOE（株主資本配当率）を勘案して、安定した配当を継続します
20年3月期の1株当たり配当金（予想）：75円（うち中間30円）

配当の予想

	18年3月期	19年3月期	20年3月期（予想）
1株当たり 配当金	58円 (うち中間20円)	75円 (うち中間30円)	75円 (うち中間30円)

◆ 中間配当の30円につきましては、11月7日の取締役会で決議されました

研究開発パイプラインの状況

研究開発パイプラインの状況

19年度の取り組み（2019年5月13日現在）

	製品名・開発コード	Ph I	Ph II	Ph III	申請	承認	上市
呼吸器	Ad-SGE-REIC 遺伝子治療剤（悪性胸膜中皮腫）	Ph I / Ph II 終了					
	KRP-108P 喘息治療配合剤		18年6月Ph II 開始		17年6月	申請準備中	19年度の申請を見込む
感染症	KRP-AM1977X キノロン系合成抗菌剤				17年4月		19年度の上市を目指す
	KRP-AM1977Y キノロン系合成抗菌剤					申請準備中	19年度の申請を見込む
泌尿器	KRP-116D 間質性膀胱炎治療剤				17年3月	申請準備中	19年度の申請を見込む
	KRP-N118 (SK-1404) 夜間頻尿治療剤		18年8月Ph II 開始				

※慢性咳嗽治療剤「MK-7264」 MSD社がPh III実施中 販売協業に関する覚書締結（19年5月）

【導出品の状況について】

開発コード	導出先	開発段階	特徴
FPR2作動薬プログラム	米国 BMS社	Ph I	FPR2作動薬：主に好中球の遊走を抑制し抗炎症作用を示す 対象疾患：非開示
KRP-203	導出活動実施中	Ph I	S1P受容体アゴニスト 対象疾患：移植片対宿主病（GvHD）
	ノバルティスが開発戦略上の視点から開発中止を決定し、開発権を返還。		

研究開発パイプラインの状況

19年度の取り組み 19年度の進捗（11月7日現在）

	製品名・開発コード	Ph I	Ph II	Ph III	申請	承認	上市
呼吸器	Ad-SGE-REIC 遺伝子治療剤（悪性胸膜中皮腫）	Ph I / Ph II 終了					
	KRP-108P 喘息治療配合剤		18年6月Ph II 開始	17年6月	申請	19年度 7月申請	
感染症	KRP-AM1977X キノロン系合成抗菌剤				17年4月	19年9月	19年度の 上市を 目指す
	KRP-AM1977Y キノロン系合成抗菌剤				申請	19年度 10月申請	
泌尿器	KRP-116D 間質性膀胱炎治療剤			17年3月	申請準備中	19年度の 申請を 見込む	
	KRP-N118 (SK-1404) 夜間頻尿治療剤		18年8月Ph II 開始				

※慢性咳嗽治療剤「MK-7264」 MSD社がPh III実施中 販売協業に関する覚書締結（19年5月）

【導出品の状況について】

開発コード	導出先	開発段階	特徴
FPR2作動薬プログラム	米国 BMS社	Ph I	FPR2作動薬：主に好中球の遊走を抑制し抗炎症作用を示す 対象疾患：非開示
KRP-203	導出活動実施中	Ph I	S1P受容体アゴニスト 対象疾患：移植片対宿主病（GvHD）
	ノバルティスが開発戦略上の視点から開発中止を決定し、開発権を返還。		

長期ビジョン「HOPE100」実現に 向けた取り組み

持続成長に向けた取り組み（医薬事業モデルの進化）

中期経営計画「HOPE100—ステージ2—（2016～2019年度）」

<創薬>

- 革新的な新薬の創出
- ・継続的な新薬創出体制を構築

<新薬事業>

- 新薬群比率の向上
- ・4つの新薬（開発品含む）を推進力に

<GE事業>

- 特色を活かしたGE戦略
- ・AG戦略の推進

<新規事業>

- 診断事業の育成と基盤づくり

2019年度の進捗

◆ FPR2作動薬プログラム

：海外2学会にて3演題発表

◆ KRP-116D

：国内外2学会にて2演題発表

◆ ラスビック錠

：承認済・19年度の上市予定

◆ KRP-AM1977Y

：製造販売承認を申請（10月）

◆ ベオーバ

：投薬期間制限の解除（12月1日）

◆ デザレックス

：製品供給再開見込み（11月18日）

◆ フルティフォーム

：KRP-108Pの製造販売承認を申請

◆ モメタゾン(ナゾネックス)点鼻液 AGを発売(8月)

◆ イミダフェナシン(ウリトス)AGの製造販売承認を取得（8月）

◆ マイクロ流路型遺伝子定量装置「GeneSoC®」、専用測定チップ

発売日：11月11日予定

FPR2 agonist（開発コード：BMS-986235/LAR-1219）について、BMS社及び杏林製薬は、2学会において計3演題を発表

American Chemical Society National Meeting (San Diego)

■ 2019年8月28日:ポスター発表

Discovery of clinical candidate, BMS-986235/LAR-1219, design and optimization of selective 4-phenylpyrrolidinone FPR2 agonist

■ 2019年8月28日:口答発表

Discovery of clinical candidate, BMS-986235/LAR-1219: Selective FPR2 agonist for prevention of heart failure

European Society of Cardiology Congress (Paris, France)

■ 2019年9月1日：口答発表

A selective small-molecule formyl peptide receptor 2 agonist promotes a pro-resolution macrophage phenotype and improves left ventricular structure-function relationships post myocardial infarction

- FPR2作動活性は、マクロファージの貪食能、好中球の障害組織への遊走抑制を介して、組織修復を促進する
- 新規化合物として創製したBMS-986235/LAR-1219は、FPR2に対して高い選択性と作動活性を示し、かつ動態特性に優れる
- マウス心筋梗塞モデルに対して、BMS-986235/LAR-1219は、FPR2作動薬として初めて有効性を示した
 - 1日1回の経口投与
 - 心筋梗塞後の心臓リモデリングと心機能の悪化を有意に改善
- BMS-986235/LAR-1219は、現在、米国においてPh1実施中

開発状況

●**第Ⅲ相臨床試験（終了）** ◆**申請準備中** * 未承認薬・適応外薬への対応として開発中

試験 : 多施設共同、無作為化、二重盲検、プラセボ対照、並行群間比較試験
疾患名 : 間質性膀胱炎
主要評価項目 : O'Leary & Sant 間質性膀胱炎 症状スコア (ICSI)
副次評価項目 : O'Leary & Sant 間質性膀胱炎 問題スコア (ICPI)、排尿症状、安全性ほか
症例数 : 96例
用法・用量、使用方法 : 1回50mLを2週間間隔で膀胱内注入する
備考 : 希少疾病用医薬品指定



試験結果

**第Ⅲ相臨床試験で、プラセボに対する優越性及び安全性が確認された
(プラセボに対する優越性を世界で初めて証明することができた)**

第Ⅲ相臨床試験に関わる学会発表について

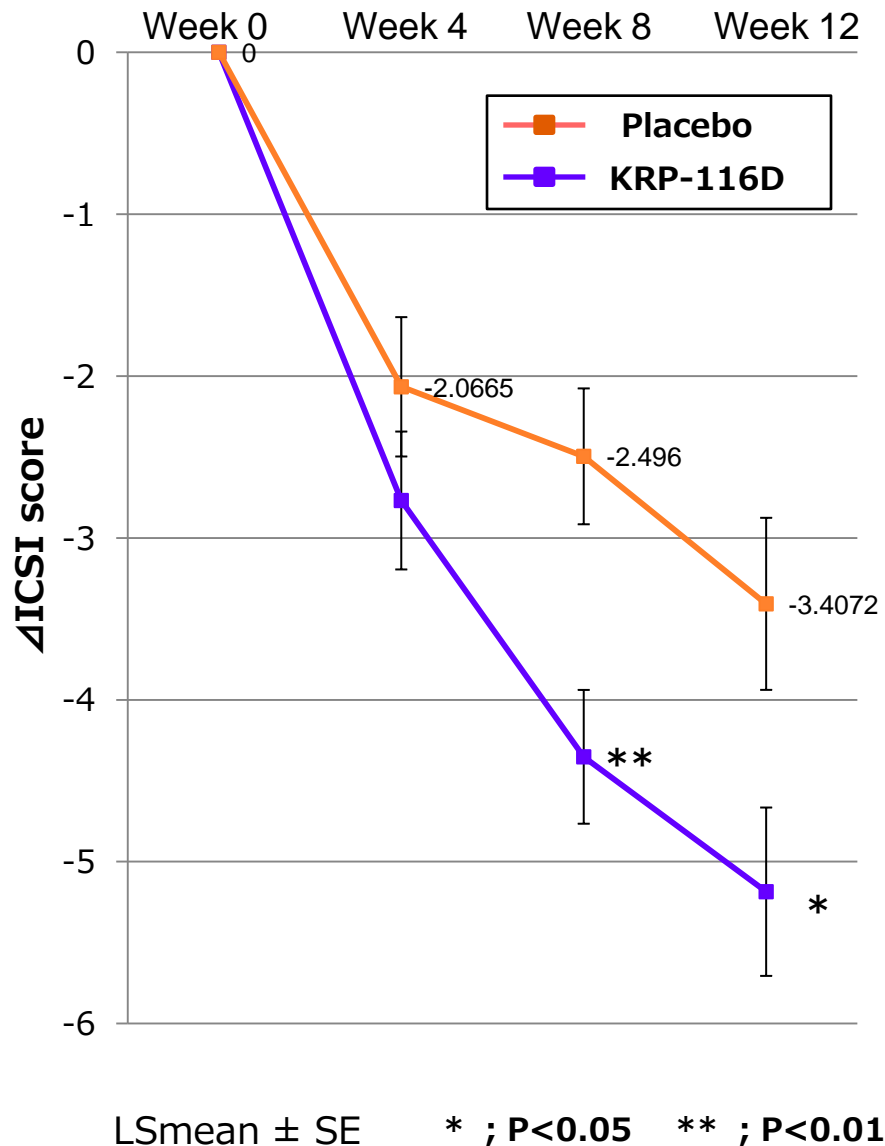
学会名 : 第26回日本排尿機能学会 (2019年9月12~14日)

【演題】日本人間質性膀胱炎患者を対象としたKRP-116D (50%Dimetyl Sulfoxide)の治療効果

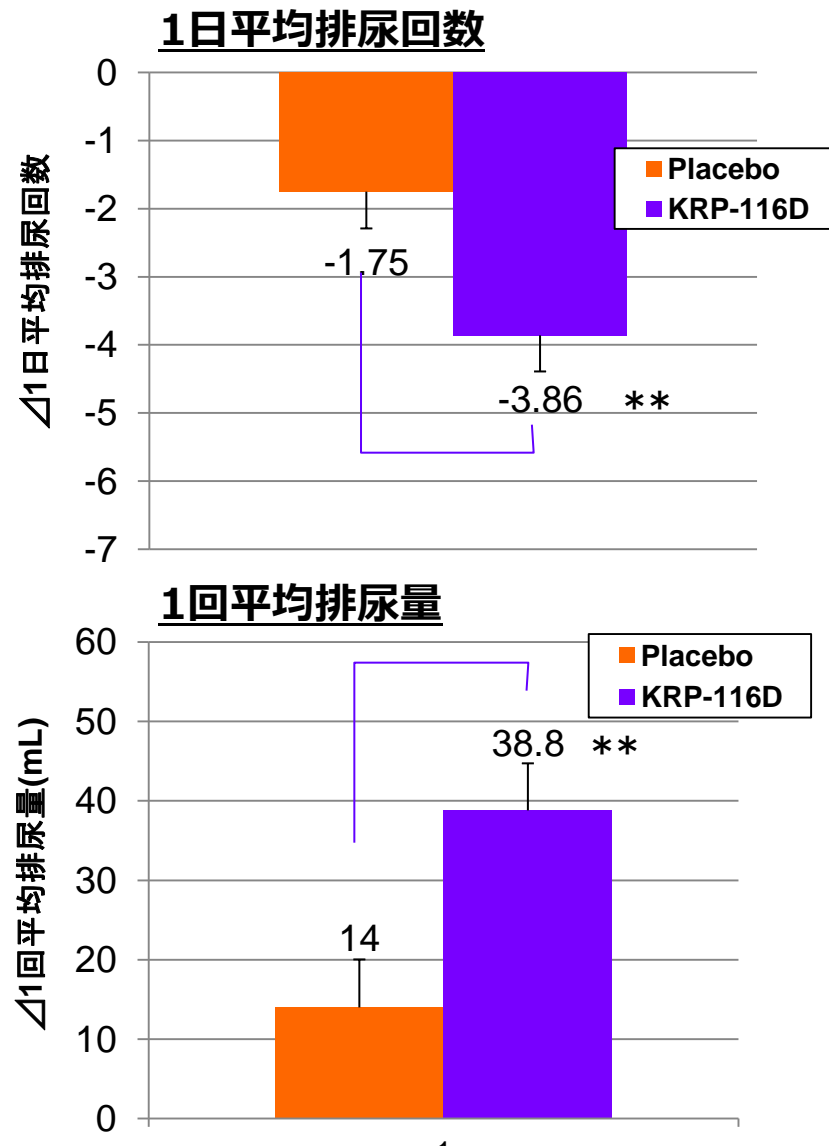
学会名 : ICS2019 (2019年9月3~6日)

【演題】日本人間質性膀胱炎/膀胱痛症候群に対するKRP-116D (50% Dimetyl Sulfoxide) の膀胱内注入の有効性と安全性に関する無作為化二重盲検プラセボ対照多施設臨床試験

ICSI の経時推移(主要評価項目)



排尿日誌 (12週後) (副次評価項目)



- 主要評価項目（ICSI）においてプラセボに対するKRP-116Dの優越性が検証でき、本試験の目的を達成した
- 主観的および客観的評価項目を含む、全ての評価項目においてKRP-116Dの有効性が認められた
- 因果関係を否定できない有害事象の発現頻度はKRP-116D群とプラセボ群でそれぞれ59.2%、及び27.7%であり、重篤な副作用は認められなかった

- 一般名：ラスクフロキサシン塩酸塩 (lascufloxacin hydrochloride)
- 略号：LSFX
- 分類：キノロン系抗菌剤

【開発の狙い】

肺炎等の治療に有効で、かつ安全性面と耐性化のリスクが低い新たな治療薬の開発を目指した

- ・呼吸器・耳鼻咽喉科感染症の原因菌(特に好気性グラム陽性菌及び嫌気性菌)に対する抗菌力を強化する
- ・肺および耳鼻咽喉組織への移行性を高める
- ・全身曝露を抑えながらも治療ターゲットにおいて十分な抗菌力を有し、耐性菌を発現し難くする

ラスビック錠75mg：2019年9月承認

- ◆適応症：咽頭・口頭炎、扁桃炎(扁桃周囲炎、扁桃周囲膿瘍を含む)、急性気管支炎、肺炎、慢性呼吸器病変の二次感染、中耳炎、副鼻腔炎
- ◆用法・用量：75mg 1日1回経口投与

KRP-AM1977Y：19年10月申請

- ◆第Ⅲ相試験対象疾患：市中肺炎、慢性呼吸器病変の二次感染、誤嚥性肺炎、肺化膿症・肺膿瘍
- ◆第Ⅲ相試験用法用量：150mg 1日1回点滴静脈内投与(投与開始日は倍量投与)



製品特長

GeneSoC : Gene Sensor on a Chip

- 超高速定量的 PCR※¹ 技術に基づく迅速な遺伝子検出 (5-15分程度)
- 感染直後から微量の試料で、高感度検出が可能
- POCT ※² を見据え小型化された卓上PCR装置

POCT による感染症起炎菌の特定と適切な抗菌薬の選択による治療の向上

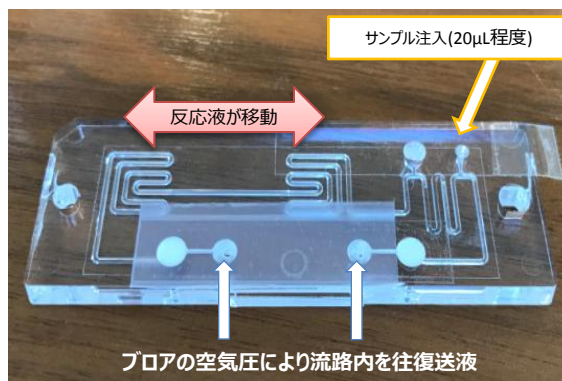
※¹ PCR (Polymerase Chain Reaction): 特定の DNA 配列を選択的に増幅する手法

※² POCT (Point of Care Testing): ベッド(患者)サイドで医療従事者が行う検査

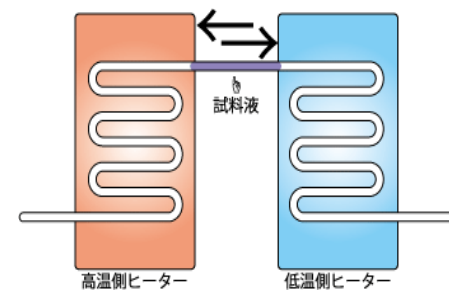
■ 2019年11月11日新発売 (研究用機器)

- ・ 超高速遺伝子定量装置「GeneSoC®」、専用測定チップ
- ・ 専用測定試薬は順次発売予定

■ 2021年 医療機器として届出し、専用の体外診断薬キットの発売を目指す



流路チップ® 7.6×2.6(cm)



予め設定された温度 (高温/低温) を微小流路を通じ、PCR溶液が移動。それにより、短時間で目的遺伝子の増幅が可能。

診断機器・診断薬



マイクロ流路型遺伝子定量装置
『GeneSoC®』

※2019年11月11日新発売 (研究用機器)

診断

医療用医薬品



※製造販売承認取得・薬価基準未収載

治療

キノロン系経口抗菌剤 「ラスビック®錠75mg」
「KRP-AM1977Y」
広範囲経口抗菌剤 「バクシダール®錠」

予防



環境除菌・洗浄剤
「ルビスタ®」
哺乳びん・乳首 消毒剤
「ミルトン」



感染症の予防・診断・治療の事業モデル確立を目指す

Kyorin 

各位

会社名	キョーリン製薬ホールディングス株式会社
代表者名	代表取締役社長 荻原 豊 (コード番号 4569 東証第1部)
問合せ先	グループ経営企画統轄部 部長 谷藤 功典
電話	03-3525-4707

ピベグロンの韓国におけるライセンス契約締結について

キョーリン製薬ホールディングス株式会社の子会社である杏林製薬株式会社(本社:東京都千代田区、代表取締役社長:荻原 茂、以下「杏林製薬」)は、過活動膀胱治療剤「ピベグロン」(以下「本剤」)について、このたび Jeil Pharmaceutical Co., Ltd.(本社:韓国 ソウル、社長:Suk Je, Sung、以下「Jeil 社」と韓国における開発、製造及び販売に関するライセンス契約を締結しました。

今回の契約締結により、杏林製薬は Jeil 社に対し、韓国における本剤の独占的開発権、製造権及び販売権を供与いたします。

本剤は、Merck & Co., Inc., Kenilworth, N.J., U.S.A.(米国とカナダ以外ではMSD、以下「メルク社」)により創製された1日1回投与の新規 β_3 アドレナリン受容体作動薬で、膀胱の β_3 アドレナリン受容体を選択的に作用し、膀胱を弛緩させることで、蓄尿機能を高め、過活動膀胱における尿意切迫感、頻尿及び切迫性尿失禁の症状を改善します。

杏林製薬は本剤について、メルク社より日本(2014年7月)並びにアジア地域※(2017年4月)における独占的な開発権、製造権及び販売権を取得しました。また、国内ではキッセイ薬品工業株式会社と共同開発・共同販売契約を締結(2016年3月)し、両社で国内開発を進め、2018年11月より「ベオーバ®錠50mg」の製品名で共同販売しています。

杏林製薬は日本国内での市場浸透を図り、過活動膀胱の諸症状に苦しむ患者さんの QOL 向上に貢献する一方、このたびの Jeil 社との提携により、韓国で本剤の普及を図り、グローバルな事業展開を推進します。

今回の契約締結による業績への影響は、本日公表の2020年3月期通期業績予想の修正に織り込んでいます。

※ 韓国・台湾・香港・ASEAN10ヶ国

